1960年3月8日第3種郵便物認可1997年11月1日発行　増刊　第442号

セセデ

チュチェ86(1997)年
特別増刊

金正日朝鮮労働党総書記
推戴記念特別号



金正日総書記
その歴史と業績

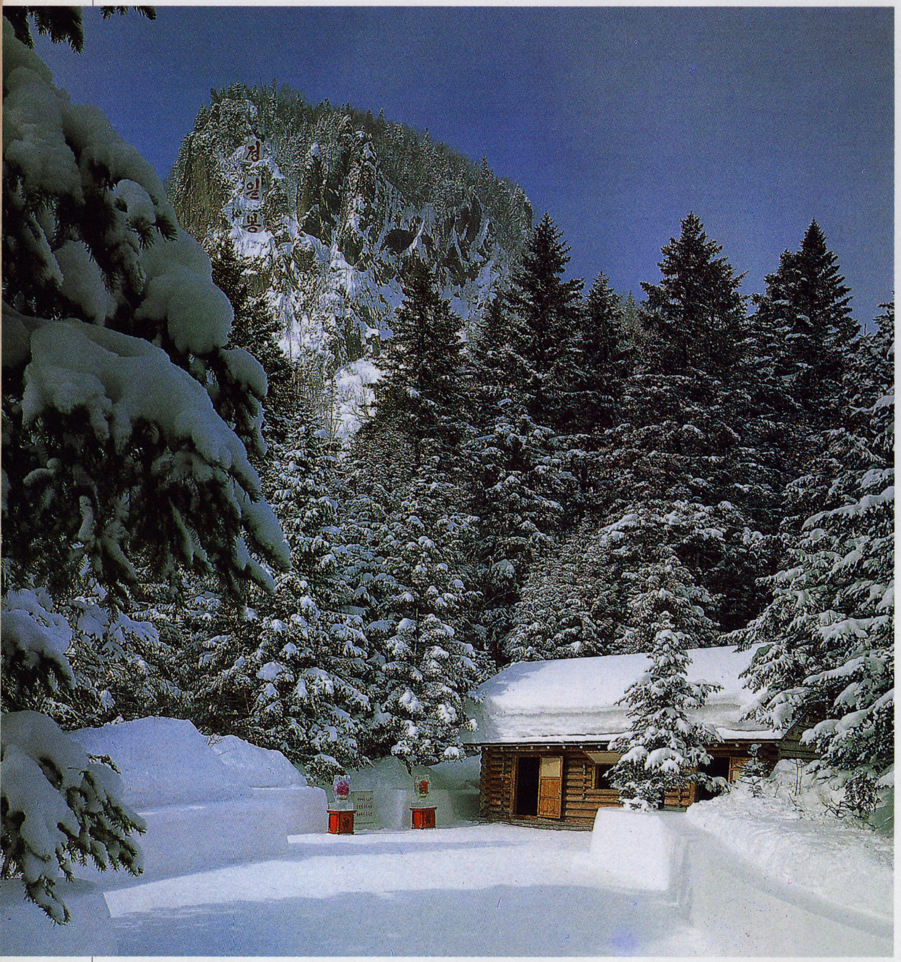
第1章

偉大な指導者、その歴史

金正日総書記が歩んできた歴史は、つねに人民から学び、人民に献身的に奉仕してきた歴史だといえる。だからこそ朝鮮人民は、総書記を早くから人民の指導者と呼び敬慕してきたのだ。
民族の歴史に新たな輝かしい1ページを刻もうとする今日まで、金正日総書記が歩んできた道のりは稀にみる偉人のそれだといえよう。

- 青雲の志を抱き学んだ日々
- 祖国の社会主義建設の先頭に立つ青年指導者
- 金日成主席の唯一の後継者に推戴されて
- 朝鮮式社会主義建設の総指揮者
- チュチェ偉業の完成のために

●白頭山密営にある金正日総書記の生家と正日峰





私たちは、金正日書記を朝鮮労働党の総書記として正式に推戴し、
総書記をわが国の最高指導者としてさらに高く戴く
新しい時代を迎えた喜びに満ちあふれています。
金正日書記が朝鮮労働党の総書記に正式に就任するということは、
朝鮮労働党の最高責任者、最高指導者としての役割を果たすばかりでなく、
実質的に国家の最高指導者となることを意味しています。
なぜならば、共和国では国政全般を朝鮮労働党が指導しているからです。
共和国の社会主義憲法は「朝鮮民主主義人民共和国は、
すべての活動を朝鮮労働党の指導のもとに行う」（第11条）ことを明記しています。
金正日総書記は、党中央委員会で活動を開始した当初から金日成主席を補佐し、
74年2月からは唯一の後継者として金日成主席とともに国政全般を指導してきました。
そして金日成主席逝去後の94年7月からは、
唯一の最高指導者としての役割を果たしてきたのです。
だからこそ、早くから総書記のことを偉大な指導者として
仰いできた朝鮮人民は、歴史的なこの日を民族最大の慶事として喜び、
「金正日時代」をさらに輝かせようという決意を新たにしているのです。
この輝かしい歴史の1ページを彩るうえで、この記念特別号が読者に満足頂ければ幸いです。



金日成総合大学で学ぶ頃の金正日総書記

この頃、共和国では戦後の復旧建設が盛んだった

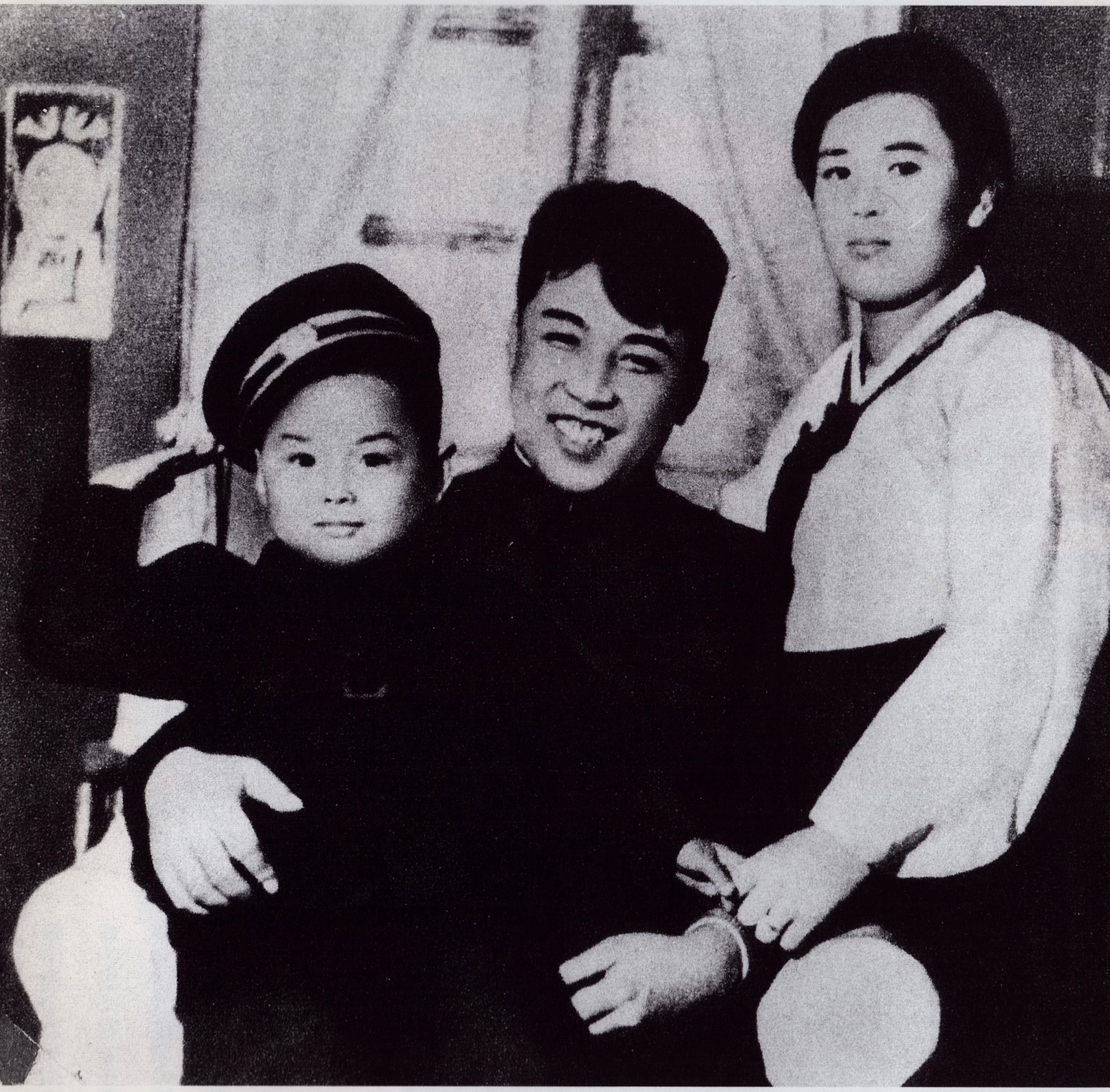


幼い頃の金正日総書記が、いかに探求心に優れ研究熱心だったかは、以下に述べるエピソードからもうかがい知れる。

総書記がまだ幼稚園に通っていた頃のある日、総書記はゼンマイ仕掛けの自動車はなぜ動くのかと、教員に尋ねた。くだんの教員はあやすように「自動車の中に子リスがいるのよ」と軽く答えたが、総書記はその答えに満足せず、おもちゃの自動車をバラバラに分解してしまった。

驚いた教員に総書記は、「この中に本当にリスがいるのかどうかを確かめたかったの」と答えたという。

青雲の志を抱き学んだ日々
（1942・2～1964・3）



金日成主席と金正淑女史の愛情のもと、すくすく育つ幼い頃の金正日総書記

金正日総書記は１９４２年２月16日、白頭山の密営で誕生した。祖国解放と共和国創建、そして祖国解放戦争と、激動期に幼少の時を過ごした金正日総書記は、母・金正淑女史から父である金日成主席のような立派な指導者になるようにと教育を受けた。

その教えと期待に応えるべく、金正日総書記は戦争などのあおりで何度も転校を余儀なくされたが、勉学に勤しみ探求心が旺盛で友達や人民に対する愛情が深い少年に成長した。

日本でいう高校の課程を終えた金正日総書記は金日成総合大学に進学し、主席の思想を意欲的に研究し、学生運動においても抜きんでた才能を発揮した。この時期、総書記は青雲の大志を抱き、絶えることなく努力する日々を送った。

祖国の社会主義建設の先頭に立つ青年指導者

（1964・4～1974・1）



現地指導先の農場で農民たちと屈託なく談話する金正日総書記

金日成総合大学を卒業した後、党中央委員会にて本格的な活動を始めた金正日総書記は、時代を担う青年指導者として精力的な活動を展開していった。

党中央委員会の補助指導員として活動を始めた金正日総書記はこの時期、党内において金日成主席の思想と指導を唯一の指針として団結し、全党を一枚岩に強化するという偉業を成し遂げた。ここに至るまでの功績が金正日総書記が金日成主席の唯一の後継者に推戴される契機となったのである。

また金正日総書記は、人々の自主性を高め健全な思想を育む文化芸術を飛躍的に発展させた。映画、歌劇など各分野での創作活動の転換期となったのがこの時期である。この頃から作家、芸術家たちを中心に「親愛なる指導者・金正日同志」という呼称が用いられるようになった。



鉱山を現地指導する金正日総書記

新しい輪転機の初始動に立ちあう金正日総書記



金正日総書記がいかに文学芸術部門の発展に力を注いでいたのかを教えてくれる逸話がある。

1970年に発表された芸術映画『ある自衛団員の運命』。この映画を制作するにあたって総書記は、すべての問題に対して指導を行い、撮影現場である白頭高原の豪雪地帯にも同行した。このとき総書記は、自身のことはかえりみようともせず、俳優や撮影スタッフの健康を気遣っていたという。

このような総書記の精力的で献身的な指導に感化されたスタッフたちの努力もあって、名作と知られるこの映画は、クランクインから実に40日間という短い期間で完成をみたのである。



粉雪の舞う寒い季節に、険しい嶺を越え３・１７発電所を訪問する金正日総書記

金日成主席の唯一の後継者に推戴されて

(1974・2〜1980・9)

70年代に入って、共和国では金日成主席の後継者を正しく選出する問題が提起されていた。この懸案は金正日総書記を唯一の後継者に推戴することでりっぱに解決したのである。この時期、総書記は党内の要職を歴任しながら共和国の社会主義建設に大きな業績を築いており、党員はもちろん人民からも広く慕われていたのだ。

後継者に推戴された金正日総書記はまず、金日成主席の思想を金日成主義と定式化し、全社会を金日成主義化する方針をうちだし、全面的におし進めていった。金日成主席がうちだした三大革命路線を受け継いだ金正日総書記は、三大革命グループ運動を大衆運動へと発展させ、経済建設の発展を促進させた。こうして、全社会の金日成主義化は、金正日総書記の指導と精力的な活動によって着実に進展したのである。



鉱山の大型ベルトコンベアの建設を現地で指導する金正日総書記

芸術映画の製作を自ら指導する金正日総書記

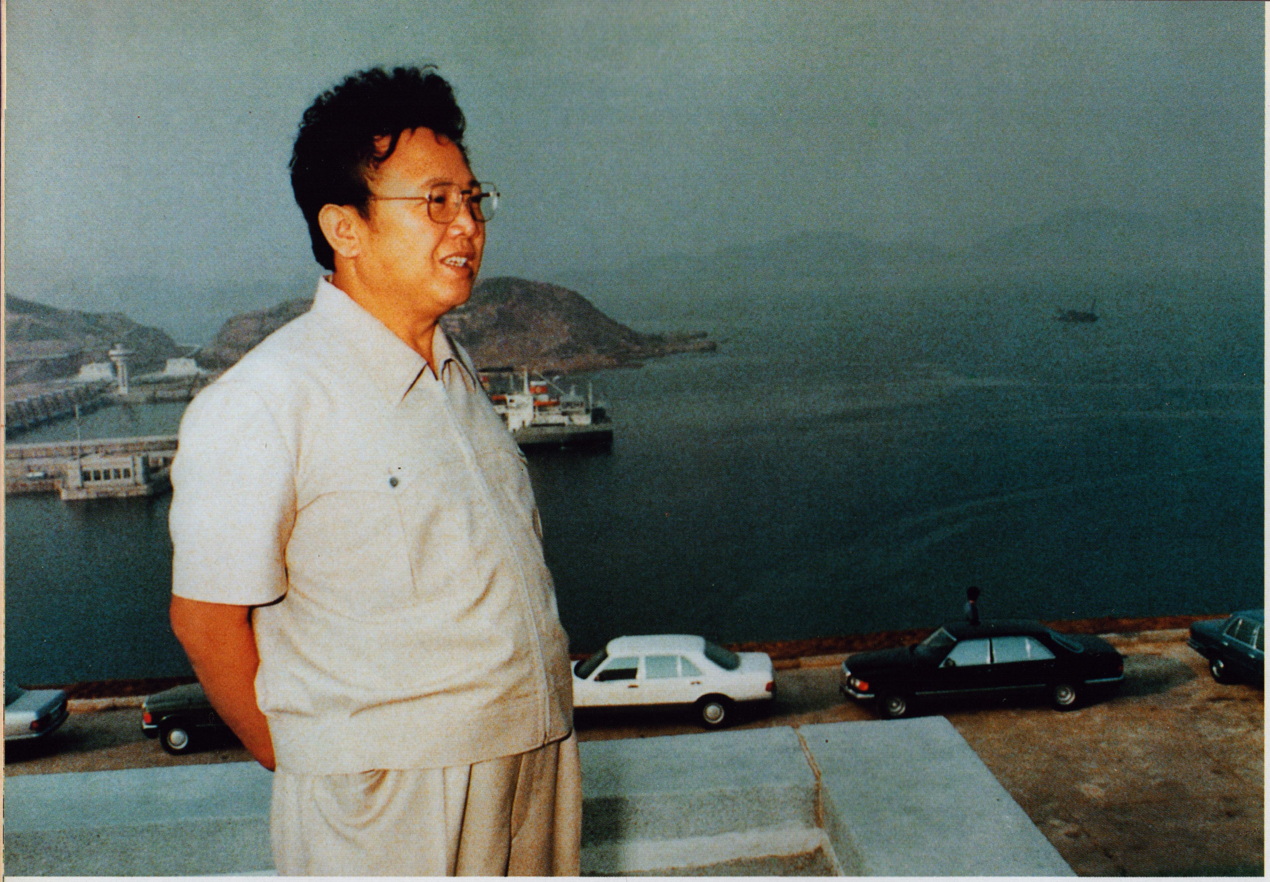


金日成主席の思想を金日成主義と定式化した有名な「２月宣言」―この不滅の業績の裏には、１０年の歳月にわたって思索と研究を続けてきた金正日総書記の不眠不休の労苦の日々がある。

特に６６年から６９年までの３年間にはマルクス、エンゲルス、レーニンの主要著書を全面的に研究、分析し再評価するなど、総書記の研究は絶え間なく続けられた。多忙な執務のため重なる疲労もかえりみず、やっと生じた休息をも後回しにしての作業であった。

『全社会の金日成主義化をめざす党思想活動における当面のいくつかの課題について』はこうして世に出されたのだ。

朝鮮式社会主義建設の総指揮者（1980・10〜1989・12）



完成した西海閘門を視察する金正日総書記

朝鮮労働党第６回大会で幕をあげた80年代。朝鮮労働党第６期第１回総会で党中央委政治局常務委員、党中央委書記、党中央軍事委員に選出された金正日総書記は、金日成主席が開拓したチュチェ偉業の完成のために、いっそう精力的な活動を展開した。

総書記はまず、主席の生誕70周年を民族最大の慶事として迎える活動を指導した。また総書記は金日成主義の発展のための思想理論活動を精力的に進めると同時に、経済建設分野では「80年代速度」を創造する方針をうちだし、労働者の意欲を大衆運動へ導いた。また86年に完成に導いた世界最大の西海閘門建設は、共和国の自立的民族経済建設路線の底力を内外に示した一大プロジェクトとなった。こうして人民の総書記に対する信頼はいっそう強まり、総書記を中心とした党、人民の団結はより強化されていった。



製鉄所を現地指導する金正日総書記

金正日総書記の愛情が注がれるのは共和国人民に限ったことではない。

84年８月から９月にかけて、南朝鮮では局地的な大雨による水害のため350人の死亡者、20万7000人の被災者を出すなどの被害がでた（当局発表）。

困難に見舞われた南朝鮮人民のことを心配した総書記は、すぐに被災民の被害状況を分析し、赤十字社を通じて米５万石、布地50万メートル、セメント10万トン、他に大量の医薬品を送る措置を講じたのだ。1800万ドルに達するという、国際赤十字社の救援運動史上例のないものであった。



世界各国の代表の熱烈な歓迎を受ける金正日総書記

偉大な指導者、その歴史



朝鮮人民軍創建６０周年記念閲兵式で閲兵部隊に祝辞を述べる金正日総書記

チュチェ偉業の完成のために

（１９９０・１～現在）



錦繍山記念宮殿の工事を指導する金正日総書記

「20世紀の共産党宣言」と位置づけられる『平壌宣言』。

金日成主席の生誕80周年に際して平壌に集まった世界の70の進歩的政党の代表たちによって採択されたこの宣言は、現在、世界の236の政党が署名するに至っている。

この宣言は、チュチェ思想に基づいた社会主義建設の理論と方途にしたがって社会主義再建運動を進める新たな道を科学的に示したものである。そしてこの宣言以後、金正日総書記の活動拠点である平壌を中心に社会主義再建をめざす運動はますます活性化しており、総書記を社会主義偉業の象徴、自主時代の公認された指導者と称え、総書記を中心とした国際的団結が進んでいるのである。

80年代末から90年代初期にかけて、東欧とソ連では社会主義が挫折し、資本主義への回帰を始めていた。しかし、このような状況においても共和国で朝鮮式社会主義をりっぱに守り建設してこれたのは、チュチェ偉業の完成をめざす金正日総書記の優れた指導力があったために他ならない。

金日成主席が逝去されてから共和国では自然災害や反動勢力の策動による危機的状況が続いた。総書記はこのような困難な状況下でも、対米外交を勝利へと導き、日本との国交樹立の道を開いたことは記憶に新しい。

そして今日、全朝鮮人民、自主と平和をめざす全世界の人々の念願がかない、金正日朝鮮労働党総書記就任が高らかに宣布された。金正日総書記をさらに高く仰ぎ、新しい歴史を刻んでいく時代が始まろうとしている。

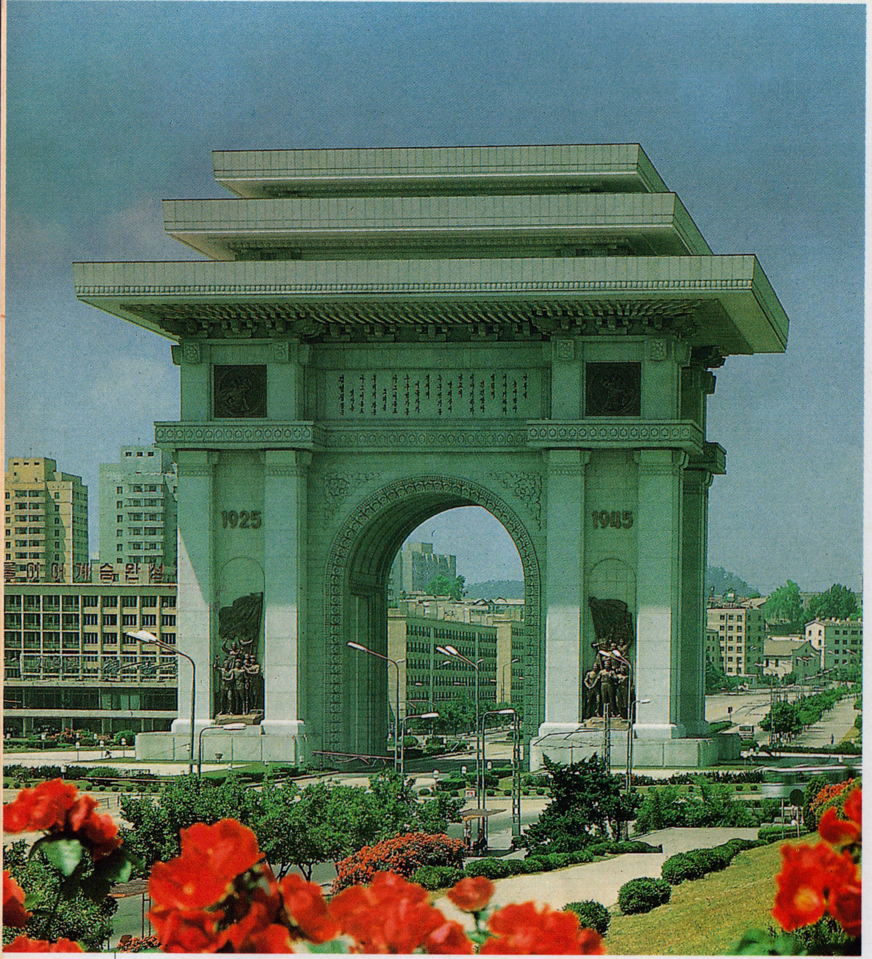


万景台学生少年宮殿の青少年とともに記念撮影を行う金正日総書記

第2章

金正日総書記、その輝ける業績

- 思想理論の英才
- 社会主義建設を力強く指導
- 祖国統一と対外事業を精力的に指導



●金日成主席生誕70周年を記念して建てられた凱旋門

金正日総書記は、卓越した思想理論と人民に対する愛と信頼の哲学を具現した仁徳政治を施し、非凡な指導力によって民衆の前に数え切れないほどの業績を残した偉大な指導者である。
その不滅な業績こそ、金正日総書記が人民の意志を汲み、人民に奉仕する、人民の指導者だということを如実に語っている。



錦繡山記念宮殿を訪れる人々が利用する路面電車の試運転に出向いた金正日総書記

94年7月8日、金日成主席逝去という思いもよらぬ悲報に見舞われた、わが朝鮮民族。悲嘆にくれる朝鮮人民に希望の灯を与えてくれたのは、もうひとりの偉大な指導者・金正日総書記その人であった。

金正日総書記は自然災害や国際的反動勢力によって苦しい生活を強いられた人民を救うため、その陣頭に立ち「苦難の行軍」を勝利へと導いたのだった。朝鮮人民にとってこの3年間は、未来の勝利を確信させるそれであった。



錦繡山記念宮殿を視察する金正日総書記



全国党宣伝活動家講習会で結語を述べる金正日総書記

金正日総書記が残した業績の内、重要な位置を占めるもののひとつに、金日成主席の思想を金日成主義と定式化し、自主時代の思想理念として宣布したことがあげられる。
１９７４年２月19日、金正日総書記は平壌で行われた全国党宣伝活動家講習会の最終日の結語のなかで、金日成主席の思想を金日成主義と定式化し、全社会の金日成主義化を朝鮮労働党の最高綱領として提示した。その後金日成主義は総書記の活動によって、共和国ばかりでなく人類の未来を代表する、人類の存在とともに永遠なチュチェ哲学として発展したのである。



道党宣伝担当書記協議会を指導する金正日総書記

金正日総書記が執筆した
著作、論文の一部





金日成主席の活動を補佐する金正日総書記

思想理論の英才

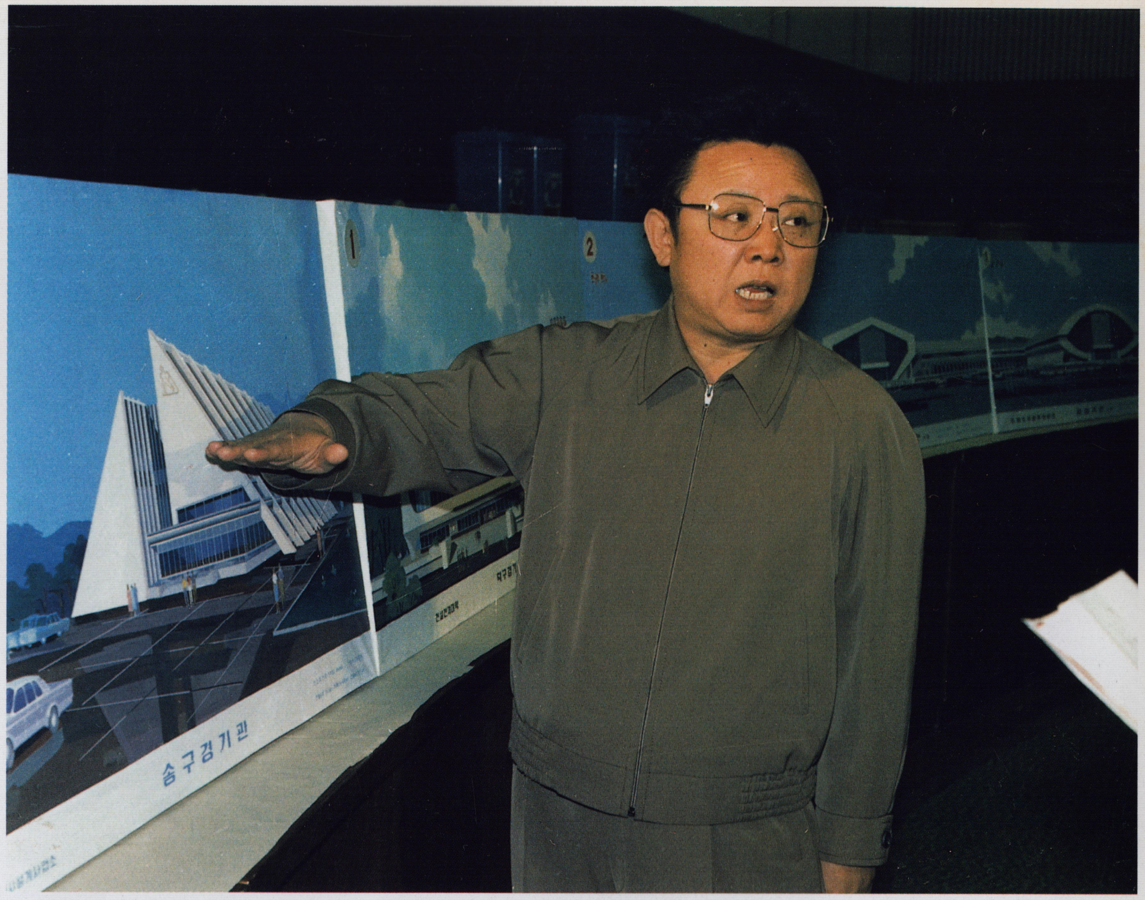
金正日総書記は金日成主席に対するたぐいまれな忠誠心を抱き主席の思想を金日成主義と定式化し、自主時代の思想理念としてチュチェ偉業を継承、発展させ様々な分野に浸透させた。

社会主義建設を力強く指導



平壌市の軽工業製品展示場を視察する金正日総書記

金正日総書記は党と人民を社会主義建設の主体として強化した。そして、社会主義建設の基本戦略目標とその実現のための戦略路線を科学的に明示し、人民経済の各分野を飛躍的に発展させた。



光復街建設の方途を指示する金正日総書記

西海閘門を現地指導する金正日総書記



金正日総書記は、全社会の金日成主義化を社会主義建設のいたる分野で推進し、自立的民族経済建設路線に基づき人民経済を活性化させた。金正日総書記は、社会主義建設の主人公である人民大衆の強化を優先させ、技術と文化の発展を精力的に指導した。

こうした総書記の指導により、社会の様々な分野で奇跡的な発展を遂げた。現在、共和国にある数多い大記念碑的創造物は、総書記の卓越した指導のもとに建設されたものである。

祖国統一と対外事業を精力的に指導



祖国平和統一委員会、崔徳新委員長の挨拶を受ける金正日総書記

金正日総書記は、高麗民主連邦共和国創立法案に基づいた祖国統一を実現させるために精力的な指導を行った。
また総書記は自主、平和、親善を基本理念とした対外政策を実現するために積極的な活動を行い世界の自主化に大きく貢献した。



祖国統一は全朝鮮民族の宿願である（第１回汎民族大会）



中国共産党・鄧小平総書記と面談する金正日総書記

分断した祖国、分裂した民族の運命に誰よりも心を痛めている金正日総書記は、主体的な統一大綱を明らかにし、90年代の統一実現に向けて自らが先頭に立ち精力的な指導を行った。総書記の活動によって、祖国統一をめざす運動は北、南、海外の同胞による汎民族的な運動に広がりを見せ、全世界の支持と連帯を受けている。
また金正日総書記は、国際社会を舞台にした対外事業においても積極的な活動をしている。こうした総書記の活動は、社会主義をめざす諸国の社会主義政党の新たな憲章として採択された「平壌宣言」などにみられるように、着実に実を結んでいる。



日本社会党土井たか子委員長（当時）を接見する金正日総書記

第3章

在日同胞青年の偉大なる指導者

●在日同胞を愛国心の強い海外公民に
●絶え間ない愛に育まれて
●総書記とともに輝く未来へ



●在日本朝鮮人総聯合会中央会館

金正日総書記は在日同胞の生活と総聯の活動につねに強い関心を持ち、特に在日同胞青年を、たとえ日本に住んでいても朝鮮人としての誇りを持ち祖国を愛することのできる立派な青年に育つよう指導している。総書記はことあるごとに在日同胞青年たちを祖国の青年たちと同じ場所に立てるように気遣うなど、たえまなく愛情を注いでくれている。
金正日総書記の暖かい配慮のおかげで、在日同胞青年は愛国の代を継ぐ未来の主人公として成長している。



総聯中央・韓徳銖議長と李珍珪第1副議長、許宗萬責任副議長の挨拶を受ける金正日総書記

在日同胞を愛国心の強い海外公民に

74年12月、祖国からは二度にわたって教育援助費と奨学金が送られてきたが、それには以下のようなエピソードがある。
74年12月の初め、在日同胞に対する教育援助費と奨学金が予定通りに送られていないことを知った金正日総書記は担当者を呼び、これは在日同胞の運命に関わる問題であり主席の志はそこにあるのだと述べながら、速やかに送るよう指示したのである。二度にわたって送られてきた莫大なお金には、そうした総書記の深い愛情と配慮が込められているのだ。



金正日総書記の暖かい愛に育まれて日本でも立派な朝鮮人が育ってゆく

総書記とともに輝く未来へ



群衆の熱烈な歓呼に応える金正日総書記

金正日総書記を最高指導者に戴いたわが祖国は新しい飛躍、発展の時代を迎えることになるだろう。金日成主席が心血を注ぎ築きあげた自立的民族経済の基盤は金正日総書記によって確実に受け継がれており、現在の難局は夢のように解決されるだろう。

朝米、朝・日関係にも新しい局面がおとずれるだろう。朝米関係は94年10月21日に発表された基本合意文にそって着実に前進しており、朝・日関係も日本政府が共和国に対する物的支援を決定するなど、好転する兆しが見えている。

祖国統一にも新しい展望が開かれることだろう。祖国統一の機運はより高まりを見せている。南朝鮮当局が無謀な対決政策を捨て、民族和解の道を選ぶなら、北と南の関係は大きく改善されるだろう。

私たちが生きる金正日時代には、このような輝く未来が約束されているのだ。



金正日総書記の推戴を祝い、金日成広場で踊る平壌市の青年学生たち



金日成主席と金正日総書記は社会主義労働青年同盟第８回大会に参加した在日同胞青年代表のために記念撮影を行った

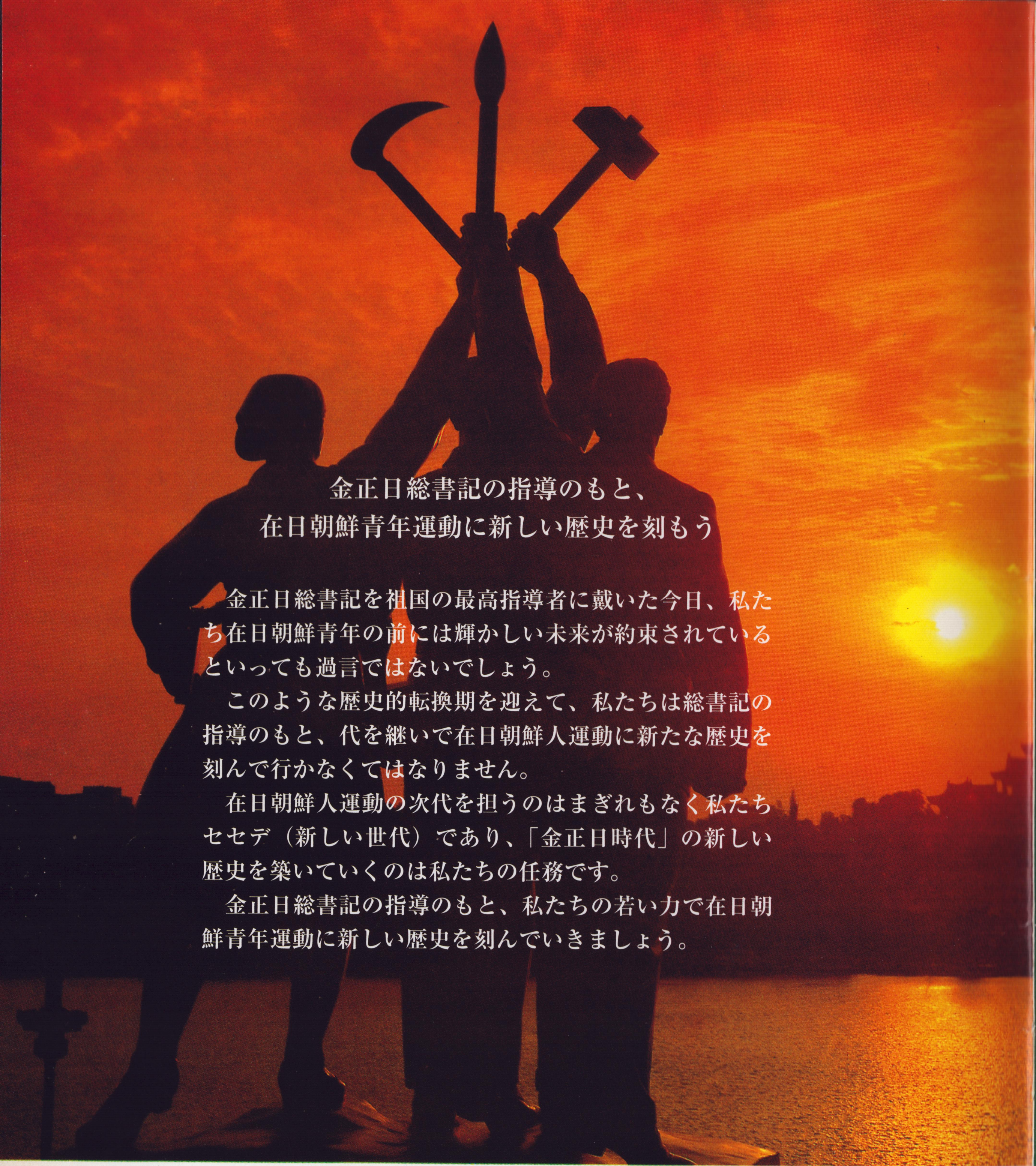
絶え間ない愛に育まれて

阪神大震災は、同胞の生活に甚大な被害を与えた。この天災に、誰よりも心を痛めた金正日総書記は当時、直ちに被災した同胞に向けて見舞いの電文と百万ドルの見舞金を送った。

また、在日同胞を片時も忘れたことのない総書記は、次の年の1月22日、在日朝鮮青年と総聯活動家との宴会の席でも阪神大震災にふれ、深い哀悼の意を表した。その席に震災時、母親を亡くした朝鮮大学校の学生がいることを知った総書記は、彼を身近に招きねぎらいの言葉を述べた。総書記の深い愛に接したその学生は卒業後、朝青支部委員長として在日朝鮮青年運動の発展に大きく貢献している。



阪神大震災で被災した同胞のために金正日総書記から見舞いの電文と見舞金として百万米ドルを送られてきたという報らせに鼓舞されて、いっそう奮闘する救援隊の同胞青年たち



金正日総書記の指導のもと、
在日朝鮮青年運動に新しい歴史を刻もう

金正日総書記を祖国の最高指導者に戴いた今日、私たち在日朝鮮青年の前には輝かしい未来が約束されているといっても過言ではないでしょう。

このような歴史的転換期を迎えて、私たちは総書記の指導のもと、代を継いで在日朝鮮人運動に新たな歴史を刻んで行かなくてはなりません。

在日朝鮮人運動の次代を担うのはまぎれもなく私たちセセデ（新しい世代）であり、「金正日時代」の新しい歴史を築いていくのは私たちの任務です。

金正日総書記の指導のもと、私たちの若い力で在日朝鮮青年運動に新しい歴史を刻んでいきましょう。

■発行人／金相哲　■編集人／文　徹
■発行所／朝鮮青年社　〒112東京都文京区白山4—33—14
［TEL03(3813)2291(代)　FAX 03(3813)2299　郵便振替00130—7—83629］
■製版・印刷／こだま印刷(株)

金正日総書記の活動主要年表

1942
2・16　金正日総書記、白頭山密営で誕生
1945
8・15　日本の植民地から解放
10・10　朝鮮労働党創建
1948
9・9　朝鮮民主主義人民共和国創建
1950
6・25　祖国解放戦争勃発（53・7・27停戦協定調印）
1954　戦後復興建設（3カ年計画）開始
1955
5・25　日本で在日本朝鮮人総聯合会（総聯）結成
1959
12・14　帰国第1次船が新潟港を出港
1960
9・1　金日成総合大学入学
1961
7・22　朝鮮労働党に入党
1964
3・18　卒業論文『社会主義建設における郡の位置と役割』発表
4・22　朝鮮労働党中央委員会に配属され、党中央委員会組織指導部指導員に着任
6・19　党中央委員会で本格的に活動開始
1966
1・26　『在日同胞の民主主義的民族権利は確固と保障されるべきである』と談話
6・6　社会主義労働青年同盟（社労青）中央委幹部らに『少年団事業に対する指導をいっそう強化しよう』と強調
10・5　第2回朝鮮労働党代表者会議で経済建設、国防建設を並行して推進する路線を堅持するように強調
1968
1・23　米軍偵察船「プエブロ号」事件が発生、朝鮮半島の緊張高まる
1・30　党軍事幹部などにアメリカの戦争挑発策動に対処して戦闘動員準備を整えるよう談話
1972
7・4　南北共同声明が発表される
1973
9・17　朝鮮労働党中央委第5期第7回総会の最終日に党組織・宣伝担当書記に選出される
1974
2・13　朝鮮労働党中央委員会第5期第8回総会で政治委員会委員に選出、金日成主席の唯一の後継者に推戴
2・19　全国党宣伝活動家講習会で『全社会の金日成主義化をめざす党思想活動の当面のいくつかの課題について』を演説、全社会のチュチェ思想化の綱領をうちだす
4・2　理論・宣伝部門の幹部に『チュチェ哲学の理解で提起されるいくつかの問題について』談話
9・24　朝鮮労働党中央委員責任幹部に在日朝鮮人青年運動において転換を起こすための活動を行うよう指示
10・3　党中央委において「70日戦闘」を提案し、その指導を担当
1975
11　『思想も技術も文化もチュチェの要求どおりに！』のスローガンを提示し、3大革命赤旗獲得運動を提案
1976
3　在日同胞の民主主義的民族教育について対策を講じる
1978
12・15　『朝鮮式に生活しよう』というスローガンをうちだす
1979
4・3　『金日成勲章』を授与される
1980
10・14　党中央委第6期第1回総会で党中央委政治局常務委員、党中央委書記、党中央軍事委委員に選出
1982
2・28　共和国最高人民会議第7期代議員に選出
4　チュチェ思想塔、凱旋門、人民大学習堂などの建設指導にあたる
7・23　「80年代速度」創造の方針を提示
1983
5・3　論文『マルクス・レーニン主義とチュチェ思想の旗を高く掲げて前進しよう』を発表
6・1　中国共産党・胡耀邦総書記の招きで中国を非公式訪問
1986
7・15　『チュチェ思想教育で提起される若干の問題について』談話
1987
9・25　著作『反帝闘争の旗をさらに高く掲げて社会主義・共産主義の道を力強く前進しよう』を発表
10・10　著作『チュチェの革命観を確立するために』を発表
1990
5・24　最高人民会議第9期第1回会議で共和国国防委員会第1副委員長に選出
1991
12・24　党中央委第6期第19回総会で朝鮮人民軍最高司令官に選出
1992
1・3　著作『社会主義建設の歴史的教訓とわが党の総路線』を発表
4・20　共和国元帥称号を授与される
1993
4・9　最高人民会議第9期第5回会議で共和国国防委員会委員長に選出
1994
7・8　金日成主席逝去
10・20　朝米基本合意書調印
11・1　労働新聞に論文『社会主義は科学である』を発表
1995
5・24　総聯結成40周年に際して書簡『在日朝鮮人運動を新たな高い 段階へ発展させるために』を送る
1997
6・19　著作『革命と建設において主体性と民族性を固守するために』を発表
10・8　金正日総書記、朝鮮労働党総書記に推戴

セセデ

特別増刊

1997年11月1日発行(特別増刊)第442号 発行所・朝鮮青年社 〒112東京都文京区白山4-33-14 電話03(3813)2291
1960年3月8日 第3種郵便物認可 [FAX03(3813)2299] 郵便振替・00130-7-83629 印刷・こだま印刷(株)

定価250円(本体238円)

